

2006 年 06 月 12 日 05 時 01 分ころの大分県中部の地震について

大分県、広島県、愛媛県で震度 5 弱

6 月 12 日 05 時 01 分ころ、大分県中部の深さ 146km で、M6.2（暫定値）の地震がありました。この地震により、大分県佐伯市、広島県呉市、愛媛県今治（いまばり）市などで震度 5 弱を観測したほか、九州地方から中部地方にかけて震度 4 ～ 1 を観測しました。この地震による津波の心配はありません。

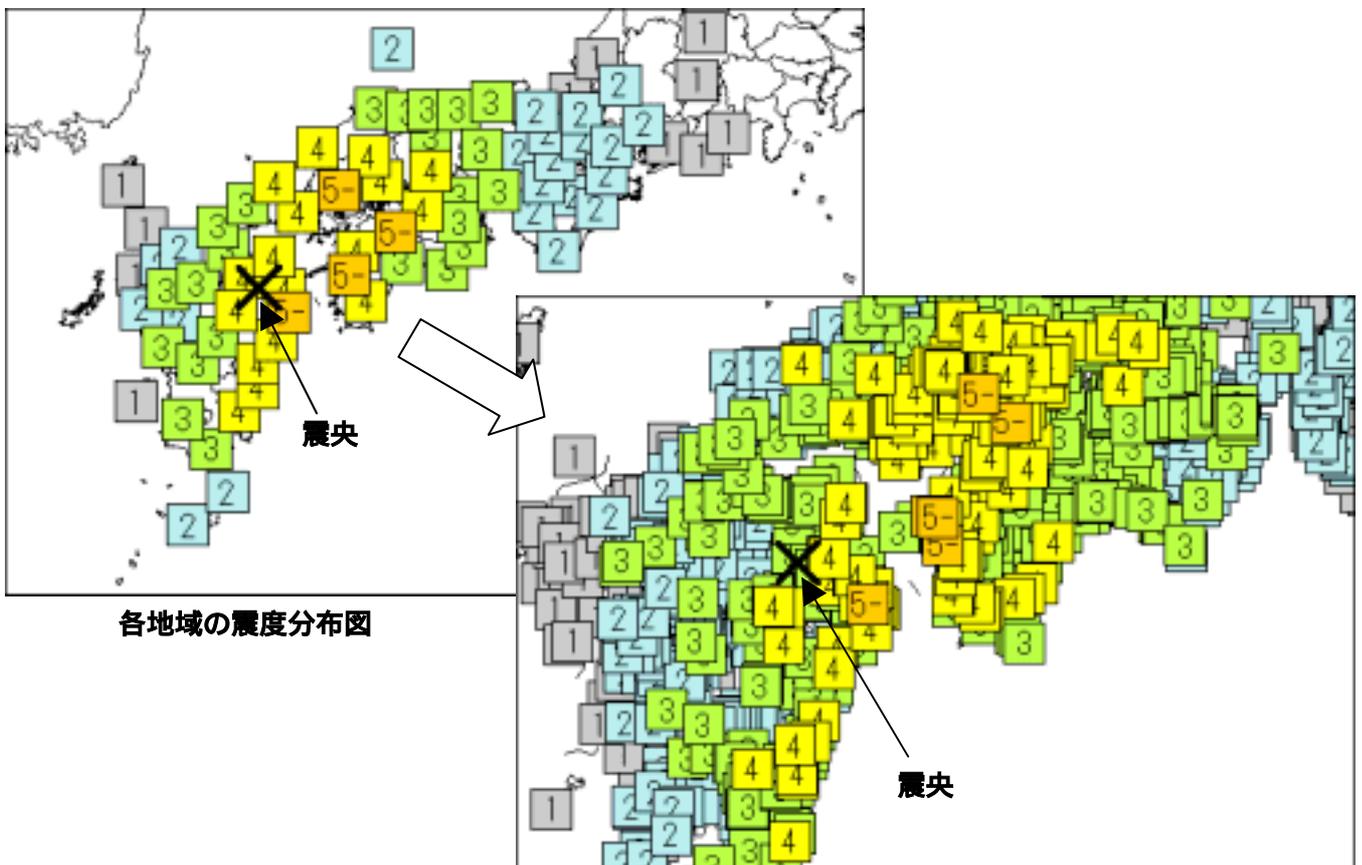
06 時 45 分現在、震度 1 以上を観測した余震はありません。

この地震はフィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられます。

大分県で震度 5 弱以上を観測したのは、2006 年 3 月 27 日に発生した日向灘の地震（M5.5）で、大分県佐伯市で震度 5 弱を観測して以来です。

広島県で震度 5 弱以上を観測したのは、2001 年 3 月 26 日に発生した安芸灘の地震（M5.2、芸予地震の余震）で東広島市で震度 5 強を観測して以来です。

愛媛県で震度 5 弱以上を観測したのは、2001 年 3 月 24 日に発生した安芸灘の地震（M6.7、芸予地震）で今治市などで震度 5 強を観測して以来です。

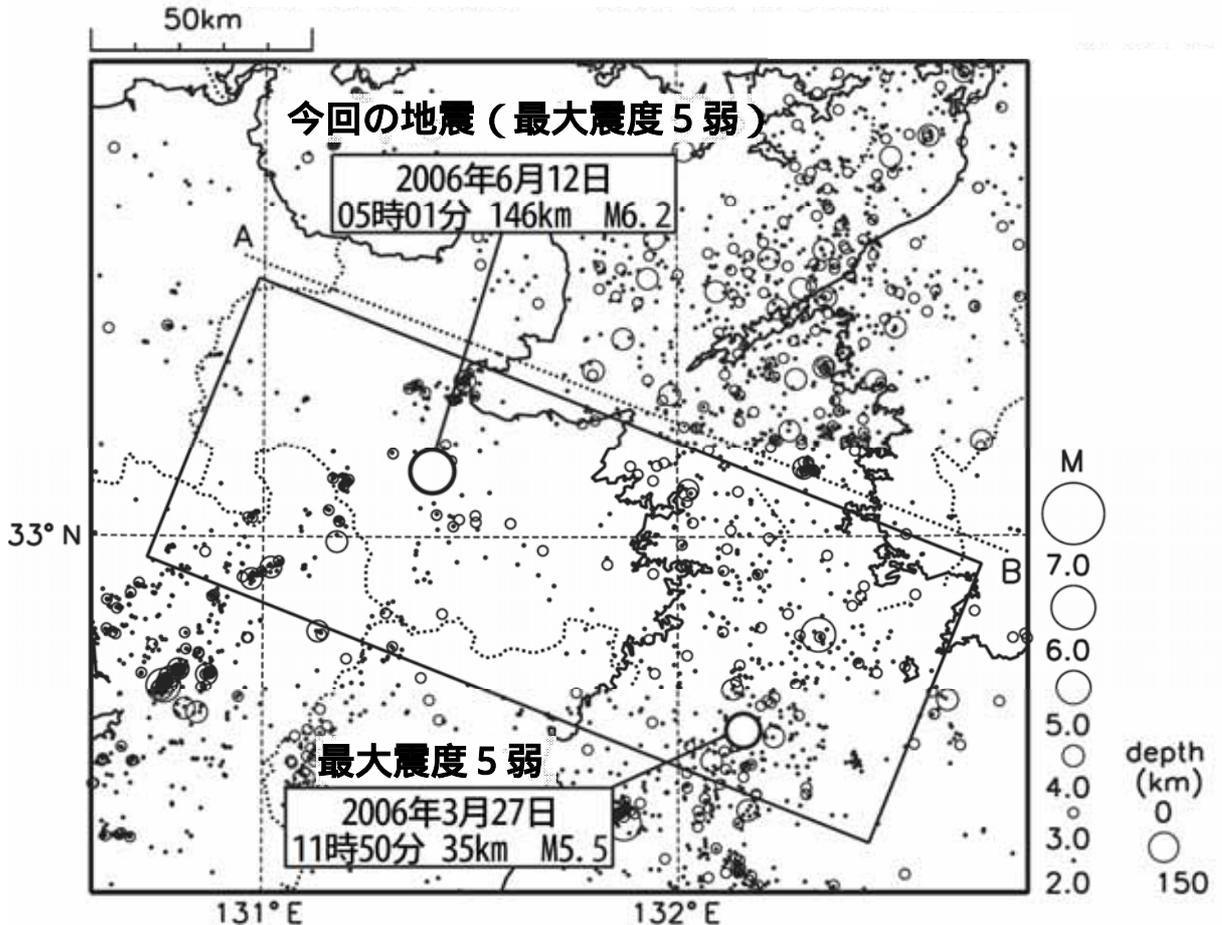


各観測点の震度分布図（震央近傍を拡大）

2006年6月12日 大分県中部の地震 (発生場所の詳細)

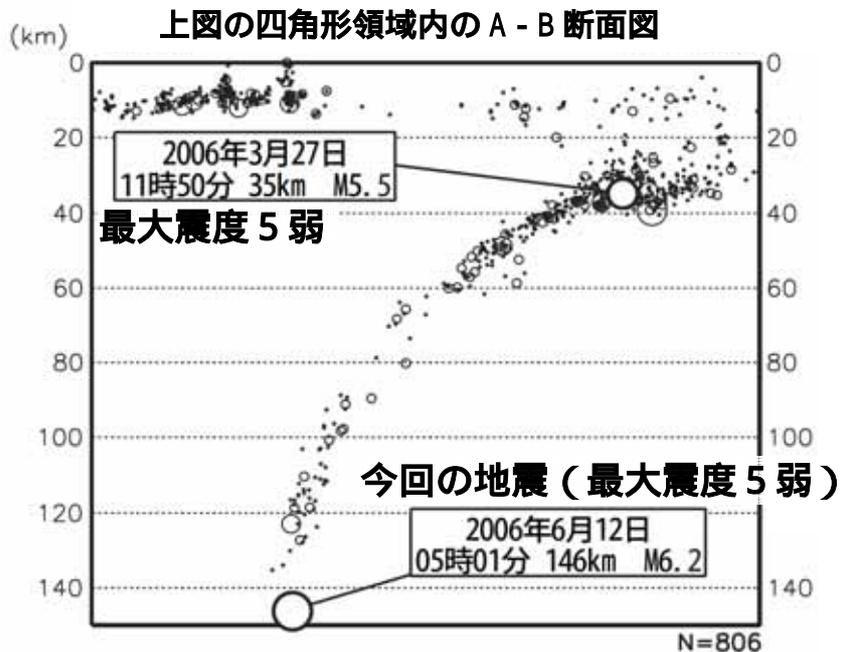
震央分布図

(1997年10月1日～2006年6月12日06時00分、深さ150km以浅、M2.0以上)



最近の震度5弱以上の地震を吹き出しで示している。

丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

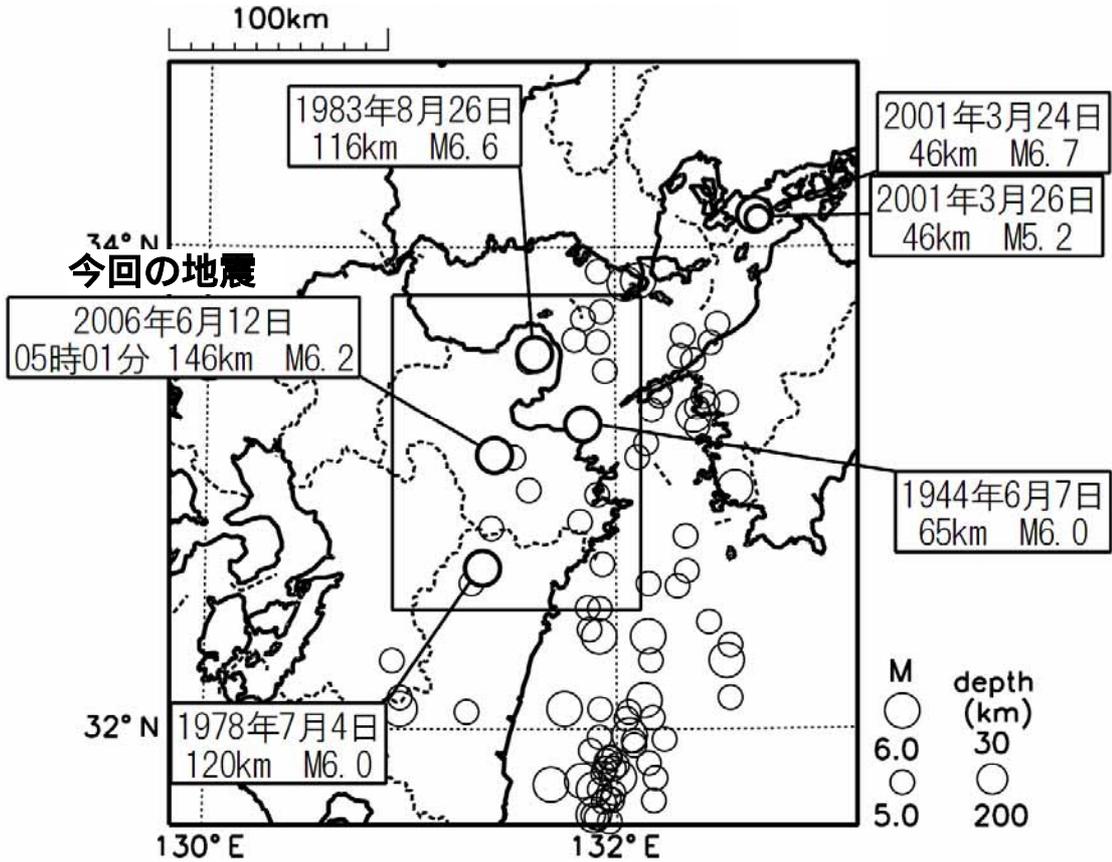


気象庁作成

2006年6月12日 大分県中部の地震 (周辺の過去の地震活動)
(深さ 30km ~ 200km の地震)

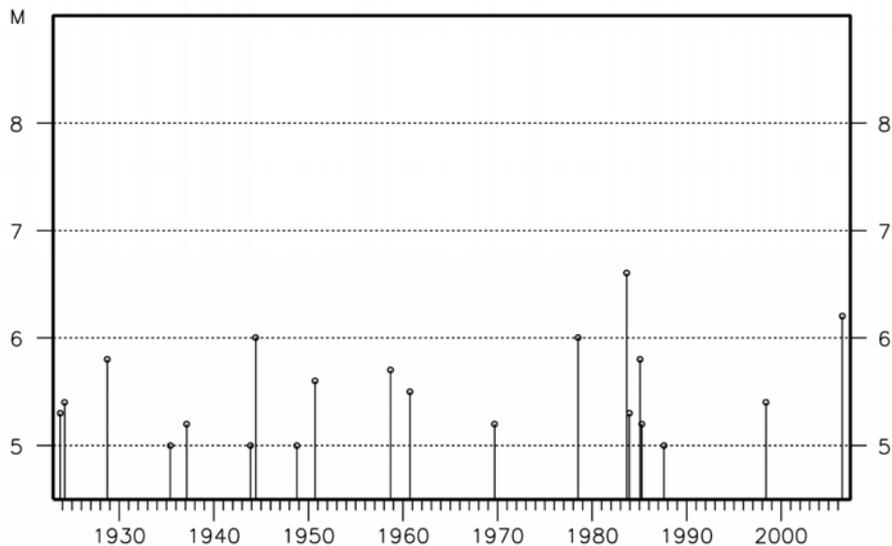
震央分布図

(1923年8月 ~ 2006年6月12日6時、深さ 30 ~ 200km、M5.0 以上)



図中の吹き出しは矩形内で発生した M6.0 以上の地震および、「平成 13 年(2001 年)芸予地震」の本震と余震を示す。

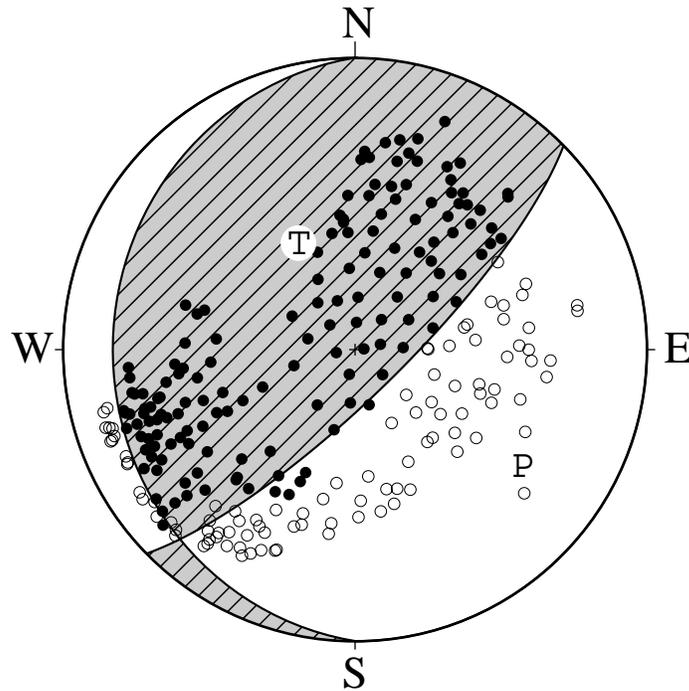
上図の四角で区切った領域内の地震活動経過図



横軸は時間、縦軸はマグニチュード。縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

発震機構解 [初動解] (暫定)

2006/06/12 05:01



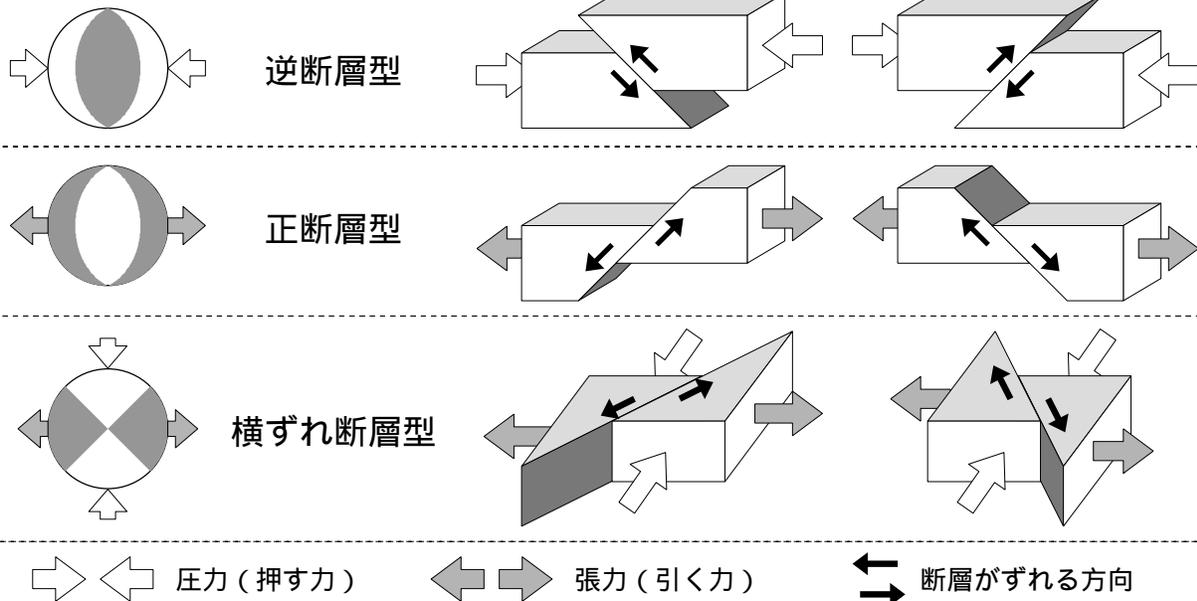
北西 - 南東方向に張力軸を持つ型

● は初動が上向きの観測点、○ は初動が下向きの観測点を示す。
P は圧力軸、T は張力軸の方向を示す。(下半球等積投影)

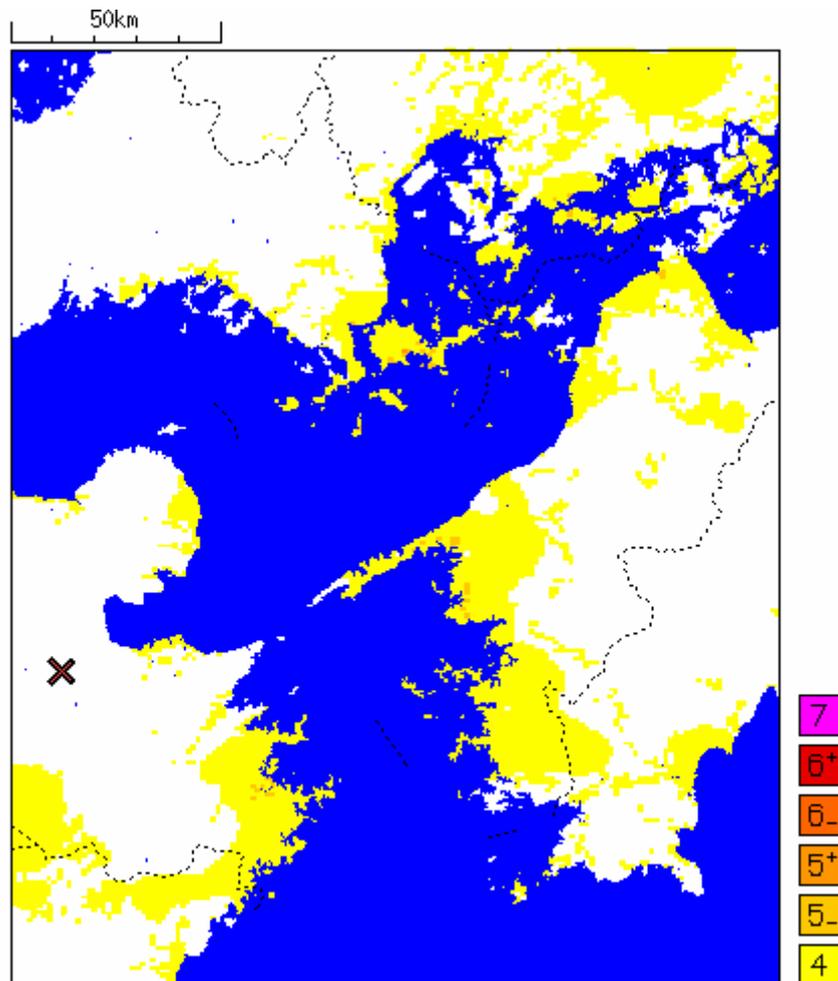
発震機構解 [初動解] について

地震波の初動方向は、地震時に働く力の向きにより異なります。
また、地震時に働く力の向きは、断層の型により異なります。
発震機構解は、これらの性質を用いて地震の初動方向から断層面を推定するものです。

以下に、発震機構解と断層の型の対応関係の典型的な例を示します。



2006年6月12日05時01分頃の大分県中部の地震 (M6.2 : 深さ146 km : 暫定値) の推計震度分布図



〔解説〕

この地震により、九州地方東部から中国・四国地方西部の一部に震度4以上の分布が広がっています。

< 推計震度分布図利用の留意事項 >

個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目してご利用下さい。